別 紙

上関地点　2026年度　上半期の環境監視調査結果について

水質調査の結果は、管理目標値を満足していた。
陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th>調査時期</th><th>調 査 結 果 概 要</th><th></th></tr>
<tr><td>水質</td><td>陸域工事
排水の水質</td><td>4月　9日
5月　7日
6月11日
7月　9日
8月17日
9月10日</td><td>水素イオン濃度、浮遊物質量ともに管理目標値内であった。
<table><tr><th>項　目</th><th>調査結果</th><th>管理目標値</th></tr><tr><td>水素イオン濃度</td><td>7.2～7.3</td><td>5.0以上9.0以下</td></tr><tr><td>浮遊物質量
（日平均値）</td><td>23mg/L 以下</td><td>150mg/L 以下</td></tr></table></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">陸生生物</td><td>ハヤブサ</td><td>4月　7日
4月24日
5月　8日
5月19日
6月12日
6月23日</td><td>鼻繰島において、4～6月に親鳥（雄・雌）を確認したが、ヒナや幼鳥は確認されなかった。</td><td>写真1</td></tr>
<tr><td>植　生</td><td>5月7、8日</td><td>イヨカズラを7箇所26株、ジュウニヒトエを36箇所202株、イヌノフグリを4箇所139株、キンランを2箇所7株、ギンランを1箇所1株、ビャクシンを1箇所1株確認した。</td><td>写真2</td></tr>
<tr><td rowspan="5">海生生物</td><td>潮間帯生物</td><td rowspan="3">4月16、17日</td><td>植物ではワカメ、サビ亜科など55種、動物ではアマガイ、カメノテなど48種を確認した。</td><td rowspan="3">写真3</td></tr>
<tr><td>海藻草類</td><td>クロメ、ワカメなど53種を確認した。</td></tr>
<tr><td>底生生物</td><td>アカウニなど5種を確認した。</td></tr>
<tr><td>スナメリ</td><td>4月～9月
（週1回・計24日）</td><td>確認回数は計66回、延べ182頭を確認した。</td><td>写真4</td></tr>
<tr><td>カクメイ科
等の貝類</td><td>5月19～21日
8月3～5日</td><td>カクメイ科の貝類は確認されなかった。
タイドプール※2箇所のうち1箇所は、岩盤の崩落があり、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所で調査を実施した。</td><td></td></tr>
</table>

※ タイドプール：干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視調査計画以外の環境調査》

○ カンムリウミスズメ（写真5）
5月に1個体（細越の南）、6月に2個体（祝島の南）、7月に9個体（長島北岸の北西）を確認した。

○ カラスバト（写真6）
鼻繰島において、4月、8月および9月に姿と鳴き声を確認し、5月には姿、7月には鳴き声を確認した。
計画地点においては、8月に鳴き声を確認した。

○ クロサギ（写真7）
鼻繰島において、4月に1羽を確認し、5月には親鳥2羽およびヒナ3羽、6月には既知営巣地の出入りが確認された。

○ ミサゴ（写真8）
鼻繰島において、7月に巣立ち後の幼鳥3羽を確認した。
天田島においては、4月から繁殖行動を確認し、7月にヒナ1羽を確認した。

【調査写真】

写真1：ハヤブサ


親鳥（雌）（4月24日）


親鳥（雄）（5月8日）

写真2：植生


イヨカズラ（5月7日）


ジュウニヒトエ（5月7日）

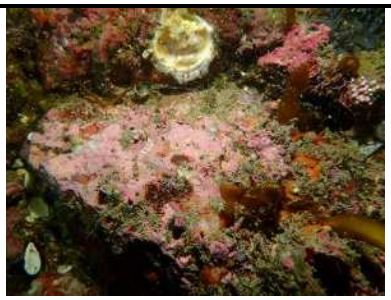

イヌノフグリ（5月8日）


キンラン（5月7日）


ギンラン（5月7日）


ビャクシン（5月7日）

写真3：潮間帯生物、海藻草類、底生生物



サビ亜科（4月16日）



カメノテ（4月16日）



クロメ（4月16日）



アカウニ（4月17日）

写真4：スナメリ



（6月17日）

写真5：カンムリウミスズメ



（7月3日）

写真6：カラスバト



（9月17日）

写真7：クロサギ



（5月8日）

写真8：ミサゴ



（7月7日　鼻繰島）



（7月7日　天田島）

以　上